

多面版SDGsローカル指標の活用と普及に 関する検討について

令和5年3月15日

農林水産省

目 次

1. 過年度調査における検討概要	1
2. 令和4年度の検討内容について	1
(1) SDGsの理解醸成を通じた取組及び活動組織の活性化のプロセスの整理	2
(2) 令和4年度調査の概要	3
3. 令和4年度調査結果	4
(1) 先進事例調査(静岡県)	4
(2) モデル地区調査(新潟県新潟市、長野県伊那市)	10
(3) SDGsアイデアシート試行調査	17
4. その他の取組	22
5. 今後の進め方(案)～来年度の方針～	23

1. 過年度調査における検討概要

【令和2年度】

- ①「持続可能な開発目標（SDGs）」と本交付金の活動目標が、持続可能な社会を目指す点において共通しており、親和性が高いことを確認。
- ②本交付金の具体的な活動内容とSDGsの目標・ターゲットの関係を示す「多面版SDGsローカル指標」を作成。

【令和3年度】

- ①毎年報告される実績報告を基に、地方自治体等を単位とした「活動量評価」を算定。
- ②活動組織がSDGsの目標毎の貢献度を確認できる「多面的機能支払SDGsアイディアシート」（以下、SDGsアイディアシート）を作成。
- ③活動量評価やSDGsアイディアシートの試行調査等により、SDGsへの貢献度を認識できるとの評価の一方で、SDGsが地域に浸透しておらず、**活動組織や地方自治体の状況を踏まえ段階的に活用をしていく必要があることが明らかとなった。**
- ④大学生に対するアンケート調査から、地域共同活動のSDGsへの貢献をPRすることは、学生に対して地域の共同活動に興味を持つきっかけとなることが示された。

多面版SDGsローカル指標（一部抜粋）

目標	ターゲット(達成目標)	本交付金の活動	
		指標	
 6 きれいな水と衛生 地域における水質を保全する	【6.3】汚染を減らす。ゴミが捨てられないようにする。有害な化学物質が流れ込むことを最低限にする。処理しないまま流す排水を半分に減らす。世界中で水の安全な再利用を大きく増やすなどの取組によって、水質を改善する。	水質保全、ゴミ等の投棄防止、水の循環利用を増やすなどの取組によって、水質を改善する。 ◆水質保全(畑からの土砂流出対策)に取り組む組織数(様式2-4) ◆水質保全(その他:水質保全等を考慮した施設の適正管理、循環かんがいの実施等)に取り組む組織数(様式2-4) ◆景観形成等、施設等の定期的な巡回点検・清掃に取り組む組織数(様式2-4) ◆本交付金と合わせて環境保全型農業直接支払交付金に取り組む組織数	
 13 気候変動に具体的な対策を 気候変動及びその影響を軽減するための対策を実践する	【13.1】気候に関する災害や、自然災害が起きたときに、対応したり立ち直ったりできるような力をすべての国でそなえる。 【13.3】気候変動が起きるスピードをゆるめたり、気候変動の影響に備えたり、影響を減らしたり、早くから警戒するための教育や啓発を、より良いものにし、人や組織の能力を高める。	災害に対する強靱性、対応力を強化する。 ◆農地維持支払(に取り組む組織数(様式2-4)(農地維持(に取り組む組織では異常気象時の対応を実施)) ◆水田貯留機能増進に取り組む組織数(様式2-4) ◆増進活動(地域住民による直営施工)に取り組む組織数(様式2-4) 災害時における応急体制の整備、水田やため池の雨水貯留機能の活用などによる防災・減災のための啓発・普及を図る。 ◆増進活動(防災・減災力の強化)に取り組む組織数(様式2-4) ◆地域住民等との交流活動を実施している(地域における水田を利用した水田貯留機能増進・地下水かん養を推進していくために下流域と上流域との間での情報交換会の実施等により、連携を図っている)組織数	

多面的機能支払 SDGsアイディアシート(案) (一部抜粋)

多面的機能支払 SDGsアイディアシート(案)

SDGs達成に貢献する活動の実施状況を確認してみましょう

※のある項目は、実績報告を参照してチェック可能な内容

①実施している取り組みにチェックをつけてください

I. 資源と環境(地域資源と農村環境の保全等への貢献)

【目標6】地域における水質を保全する。

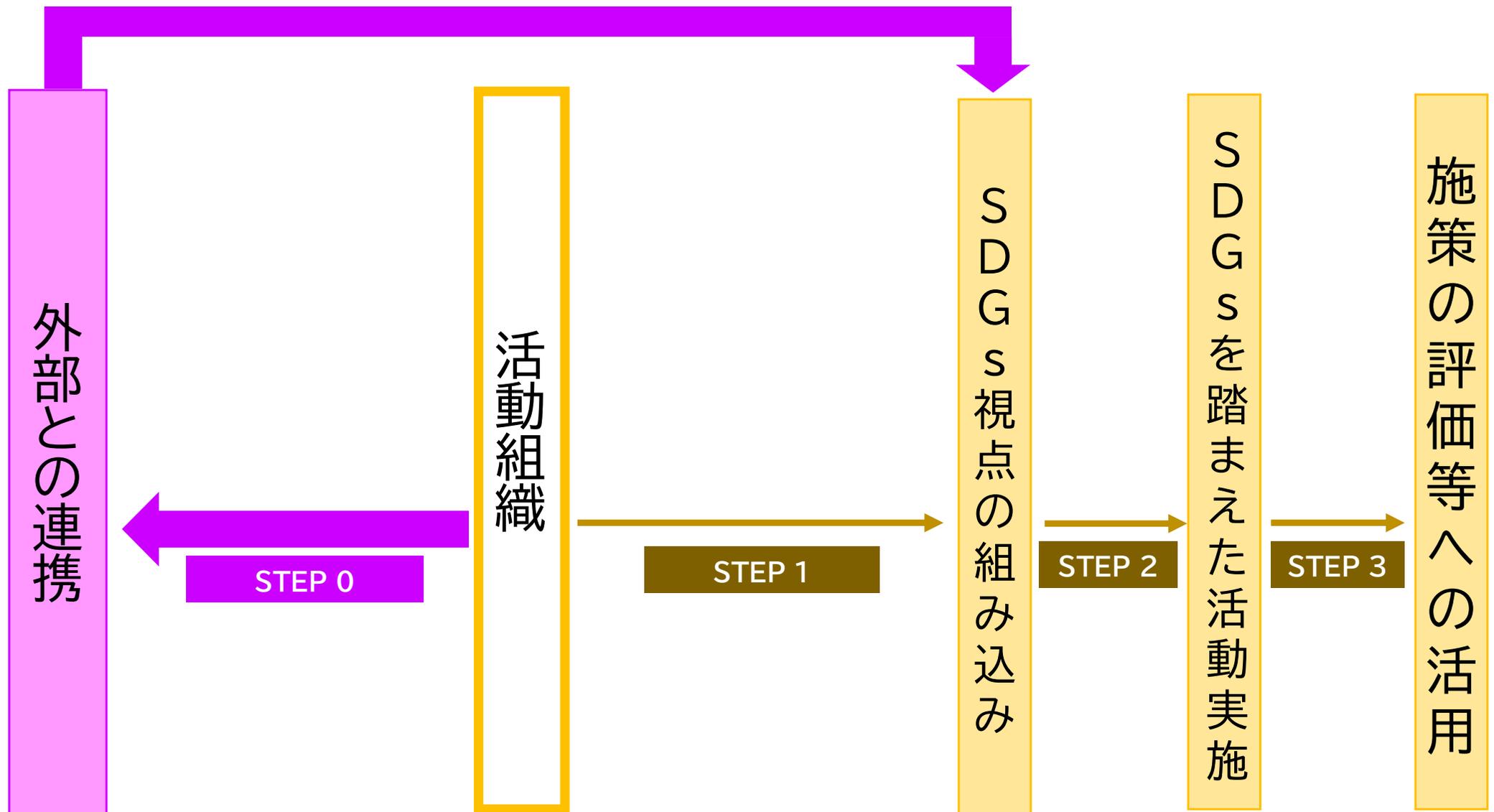
 6 きれいな水と衛生	6.3 水質保全、ゴミ等の投棄防止、水の循環利用を増やすなどの取組によって、水質を改善する。
	<input type="checkbox"/> 畑からの土砂流出対策に取り組んでいる《水質保全》※ <input type="checkbox"/> 水質保全等を考慮した施設の適正管理、循環かんがいの実施等に取り組んでいる《水質保全》※ <input type="checkbox"/> 施設等の定期的な巡回点検・清掃に取り組んでいる《景観形成・生活環境保全》※ <input type="checkbox"/> 本交付金と合わせて環境保全型農業直接支払交付金に取り組んでいる <input type="checkbox"/> 下記の活動に取り組んでいる(チェックを付けたら、活動内容欄に具体的な活動内容を記載してください) 活動内容:

【目標13】気候変動及びその影響を軽減するための対策を実践する。

 13 気候変動に具体的な対策を	13.1 災害に対する強靱性、対応力を強化する。
	<input type="checkbox"/> 排水路等の草刈りや泥上げ、点検等により異常気象時等の被害軽減に取り組んでいる《農地維持》 <input type="checkbox"/> 異常気象後の見回りや応急措置により、異常気象時等の被害軽減に取り組んでいる《農地維持》 <input type="checkbox"/> 水田の貯留機能向上活動に取り組んでいる《水田貯留機能増進》※ <input type="checkbox"/> 地域住民による直営施工に取り組んでいる《増進活動》※ <input type="checkbox"/> 下記の活動に取り組んでいる 活動内容:
	13.3 災害時における応急体制の整備、水田やため池の雨水貯留機能の活用などによる防災・減災のための啓発・普及を図る。
	<input type="checkbox"/> 防災・減災力の強化に取り組んでいる《増進活動》※ <input type="checkbox"/> 地域における水田を利用した水田貯留機能増進・地下水かん養を推進していくために下流域と上流域との間での情報交換会の実施等により、連携を図っている《啓発・普及活動》 <input type="checkbox"/> 下記の活動に取り組んでいる 活動内容:

2. 令和4年度の検討内容について

(1) SDGsの理解醸成を通じた取組及び活動組織の活性化のプロセスの整理



(2) 令和4年度調査の概要

○これまでの検討結果を踏まえ、以下の調査により、SDGsアイデアシートの活用と普及方法を検討する。

- 1) 先進事例調査（静岡県）
- 2) モデル地区調査（新潟県新潟市、長野県伊那市）
- 3) SDGsアイデアシート試行調査（活用方法に対する意見の収集）

1) 先進事例調査（静岡県）

静岡県では、農村と企業等の協働活動を推進するため、2006年から「一社一村しずおか運動」として多面的機能支払の活動組織を含む36地域41社（大学・団体）を認定。この活動を推進している県、活動組織、企業等を対象としてSDGsアイデアシートの有効性と課題について調査を行い、今後の普及方法等を検討。

2) モデル地区調査（新潟県新潟市、長野県伊那市）

地方自治体、活動組織等を対象に、SDGsアイデアシートを活用した普及・連携促進に関する有効性、ニーズ等について把握。

- ① 新潟市：平地農業地域に位置し、地域住民の参加による保全活動が当面見通せる地域
- ② 伊那市：中山間地域に位置し、高齢化等により草刈等の作業が負担となってきた地域

3) SDGsアイデアシート試行調査

- ①教育機関と連携している活動組織等から、SDGsアイデアシートの活用方法等に対する意見を収集。
- ②活動組織リーダー及び地方自治体担当者から、活動量評価及びSDGsアイデアシートの活用方法等に対する意見を収集。

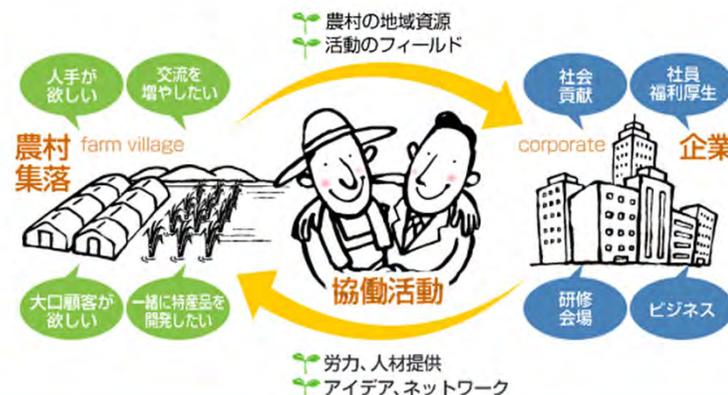
3. 令和4年度調査結果

(1) 先進事例調査（静岡県）：「農的関係人口」の創出・拡大や関係の深化への取組におけるSDGsの活用

- 静岡県における活動組織と企業等とのマッチング支援体制は、「一社一村しずおか運動」と合わせて、しずおか農山村サポーター「むらサポ」、「むらづくりワンストップ窓口」等から構成されており、連携へのステップを進めやすい仕組みとなっている。

「一社一村しずおか運動」

- 企業が果たす社会的責任(CSR)として環境改善や地域社会への貢献に関心の高い企業が増えており、静岡県では2006年より、農村と企業が持つ、それぞれの資源、人材、ネットワーク等を生かし、双方にメリットのある協働活動の実施を目指す「一社一村しずおか運動」を実施している。
- 2022年度現在、県内36の地域で41の企業が45の認定を受けて活動を行っている。この36地域のうち、多面的機能支払交付金に取り組んでいる地域は21地域となっている。
- 県の役割は、農山村、企業等の情報収集・発信、連携のコーディネート、活動の認定及び認定事例のPR等である。



しずおか農山村サポーター「むらサポ」

- 農山村をみんなで守り、盛り上げていこうという静岡県民を主体としたサポーターズクラブ。登録した個人、法人には、メールマガジンやFacebook等により、各地域の紹介やイベント等のお知らせ、協働活動の事例等が配信される。
- 「むらサポ」をきっかけとして、地域活動への参加やマルシェ等の開催、企業を持つ技術の提供、「一社一村しずおか運動」への取組等へ発展してきている。

むらづくりワンストップ窓口

- 地域づくりに関する各種相談の窓口として、地域づくりアドバイザーや環境学習コーディネーターが対応する拠点を県内に4箇所設置している。

情報発信

旬な農山村の情報を無料で「むらサポ」HPやFacebookで広報

連携支援

外部人材の連携支援、各種ノウハウ等を農山村のよろず相談の受付
農山村のよろず相談の受付

各種相談

マッチング支援プラットフォーム「むらマッチ」(構築中)

- 農村と企業・大学のマッチングを支援するプラットフォームとして、両者のニーズ、得意分野等を掲載するサイト。
- 令和5年度の公開に向けて、システム構築中。
- 農村(活動組織)、企業・大学とも、SDGsというキーワードで整理して登録することを検討しており、活動組織の情報には多面版SDGsローカル指標を活用予定。

一社一村しずおか運動取組事例①：都田地区（静岡県浜松市）

（NEXCO中日本×水と緑北都の会・都田里山の会）

みかんの収穫などの農作業支援や遊休農地の草刈り、野菜の作付や景観形成活動の実施などを通じた交流により、良好な農村環境の保全と地域の活性化を目指す。

取組経緯

- NEXCO中日本が社内でCSRの具体化を検討している時に「一社一村しずおか運動」を知り、高速道路の建設時からつながりのあった都田地区等、県内3箇所では2011年に取組を開始。
- 都田地区では、2つの活動組織（水と緑北都の会・都田里山の会）と連携して12年間活動を継続中。

【活動組織概要】

- ①水と緑北都の会（活動開始 2007年）
 - ・ 認定農用地面積 5.2ha(田3.6ha、畑1.6ha)
 - ・ 取組内容 農地維持、資源向上(共同・長寿命化)
 - ・ 主な構成員 農業者144名、自治会4、学校PTA2、漁協1
- ②都田里山の会（活動開始 2010年）
 - ・ 認定農用地面積 7.8ha(畑7.8ha)
 - ・ 取組内容 農地維持、資源向上(共同・長寿命化)
 - ・ 主な構成員 農業者170名、自治会3、学校PTA2等

活動内容

- 草刈り、遊休農地を活用した野菜の栽培等。
- 景観形成活動として、芝桜や彼岸花を植栽。



取組による効果

《企業》

- 地域の人たちと交流する機会となっている。
- 活動参加者のアンケート調査では、9割以上が参加してよかった、どちらかと言えばよかったと回答。
- 地域と一体となった取組として継続していきたい。

《活動組織》

- 遊休農地の発生防止が図られ、美しい景観が維持されている。
- 2つの活動組織の連携につながった。
- 景観形成活動で植栽された彼岸花は、天浜線ギャラリー(天竜浜名湖鉄道の写真投稿サイト)の題材として投稿されるなど、観光資源となっている。

《波及効果》

- NEXCO中日本は、「株式会社鈴生」との共同出資により、裏作や耕作放棄地の活用してレタス、枝豆などの生産・販売を行う農地所有適格法人「中日本ファームすずなり株式会社」を2018年度に設立。都田地区内の農地も借地により耕作している。

一社一村しずおか運動取組事例①：都田地区（静岡県浜松市） （NEXCO中日本×水と緑北都の会・都田里山の会）

(1) 参加企業等の掘り起こし（マッチング支援）

企業

- この取組がSDGsへの貢献につながっていることを認識した。
- SDGsアイデアシートは地域をよく知るきっかけとなる。

(2) 活動組織と企業等のコミュニケーションの促進

企業

- （活動組織、企業等のそれぞれのニーズや協働による効果等を明らかにし、相互の理解を促進するのに役立つという観点から）SDGsアイデアシートは、農村地域と企業とのコミュニケーションツールとなるのではないか。

(3) 新たな取組や新事業創出のきっかけづくり

企業

- SDGsアイデアシート等により取組状況等が見える化されると、地域により入りやすくなり、別の活動やビジネスのヒントになる可能性がある。

【参考1】企業との協働活動をきっかけとした新たな取組

組織

- 一社一村しずおか運動への取組が2つの活動組織の連携につながった。

一社一村しずおか運動取組事例②：上倉沢地区（静岡県菊川市）

かみくらさわ
すずよ
せんがまち
鈴与(株)・グローバルデザインスクール(株) × 上倉沢千框保存会

棚田の保全、酒米栽培等を通じた関係人口の創出、産学連携の実施による地域人材の育成

取組経緯

- 物流会社である鈴与(株)が、地域への社会貢献や社内の活性化を目的に、農山村での活動を検討していたところ、「グローバルデザインスクール(株)（以下、GDSという。）」の仲介により「むらサポ」に登録。
- 2022年に一社一村しずおか運動の認定を受け、活動を開始。

【活動組織概要】

上倉沢千框保存会（活動開始 2007年）

- ・ 認定農用地面積 39.3ha(田3.1ha、畑36.2ha)
 - ・ 取組内容 農地維持、資源向上(共同・長寿命化)
 - ・ 主な構成員 農業者13名、NPO法人1等
- ※活動組織の構成員であるNPO法人が連携の主体

活動内容①棚田の保全活動等

- 棚田での酒米の栽培、「菊川ジュニアビレッジ」の応援活動（作業支援やハーブの購入等）を実施。
- 収穫した酒米は他地区で栽培している酒米と合わせて県内の酒造場で日本酒を製造し、社内での利活用を図る予定。



写真:「むらさぽ」HP
<https://www.shizuoka-murasapo.net/senngamachi-tanada-taue/>

活動内容②ジュニアビレッジとの協働

- GDSは、農業を通じて不確実な未来を生き抜く人材育成プログラムとして、小中学生向け次世代イノベーター育成コミュニティスクール「ジュニアビレッジ」等を企画運営。ジュニアビレッジでは応援団の和を広げるために企業との連携を図っており、GDSは**地域と企業の連携の中間支援**を行っている。
- 2016年に発足した菊川ジュニアビレッジは、菊川茶の魅力を伝え、菊川市の地域活性化につなげるために小6から中2までの子どもたちが集まり、1年間を通して生産から会社経営を行っている。上倉沢地区でハーブを栽培し「本気のハーブティ」と名付けて商品化したハーブティをネット等で販売している。



写真上:静岡県人会HP
<https://shizuokakenjinkai.jp/spcontents/15939/>

写真下:こども商店HP ジュニアビレッジプログラムのオンラインショップ
<https://jvglocal.thebase.in/?fbclid=IwAR3u3XGee22KIGUZ9woz3CnIqIKOr83DmYJrZGyr5Mq16seRjuN141bZd8>

取組による効果

《企業》

- 地域の人たちとふれあう機会ができ、社員とその家族が職場を離れて一緒に活動できる。
- 地域や環境保全について考える機会や小中学生、大学生等多様な主体との交流が図られている。

《組織》

- 棚田のことを知ってもらう機会となる。
- 遊休農地の利活用が図られる。
- 酒米づくりなど、新たな活動を行うきっかけとなっている。

一社一村しずおか運動取組事例②：上倉沢地区（静岡県菊川市）

鈴与(株)・グローバルデザインスクール(株)×上倉沢千框保存会

(1) 参加企業等の掘り起こし（マッチング支援）

中間支援 組織

- SDGsへの貢献を意識している企業は多く、貢献したい目標を設定している企業もあるため、農村地域に興味のある企業と具体的な話をしやすくなる。
- 企業が協働活動について広報する場合、SDGsアイデアシートの情報は、SDGsの目標に貢献していることの尺度となるので、企業としても公開しやすくなるだろう。
- 地域課題を企業も一緒に考えるような形の協働活動は、参加する社員がSDGsを身近に感じる機会となり、人材育成にもつながると考えている企業が増えてきている。
- 「地域側のSDGsの課題を一緒に解決してくれるパートナー企業を募集」という呼び込み方が明確でよい。

(2) 活動組織と企業等のコミュニケーションの促進

中間支援 組織

- 企業が参加したことによる効果や地域からの要望を活動組織から企業へフィードバックできる資料になることが望ましい。地域側の評価や期待値があると、企業側としても活動を継続するための材料となる。

(3) 新たな取組や新事業創出のきっかけづくり

中間支援 組織

- 地域側の意向が見えてくると、次の協業につながり、企業の活動を深化させる補助ツールとなる。

【参考1】企業との協働活動をきっかけとした新たな取組

組織

- 酒米づくりなど、新たな活動を行うきっかけとなっている。

(1) 先進事例調査（静岡県）まとめ : 「農的関係人口」の創出・拡大や関係の深化への取組におけるSDGsの活用 (SDGsアイデアシート等によるSDGsへの取組状況の見える化の有効性の検討)

(1) 参加企業等の掘り起こし（マッチング支援）

- 企業等のSDGsへの貢献や地域協働活動への関心は高まっており、活動組織によるSDGsへの取組状況の見える化は、参加企業等の掘り起こし（マッチング支援）に有効
- SDGsアイデアシート等の情報を企業等へ届ける仕組みの構築がポイントであり、全国の自治体や推進協議会、中間支援組織等による連携の支援体制や支援方法を把握し、その仕組みに溶け込ませることが重要

(2) 活動組織と企業等のコミュニケーションの促進

- SDGsアイデアシートにより活動組織と企業等のコミュニケーションが促進され、企業等のモチベーションの向上、協働の取組の継続・発展に有効
- 協働活動に取り組む活動組織、企業等、それぞれのニーズや協働による効果、要望等を含めた相互のフィードバックを促進するツールとしての役割が期待

(3) 新たな取組や新事業創出のきっかけづくり

- SDGsへの貢献という視点を通して地域の課題や目標を活動組織と企業等が共有することにより、課題解決に向けた新たな取組や新事業創出のアイデアが生まれるきっかけとなる可能性
- 行政や中間支援組織等によるコミュニケーションの促進や各種関連支援策に関する情報提供等、新たな取組や連携等への発展を支援することが重要

【参考2】 中間支援組織(事例②)から見た「農的関係人口」の創出・拡大や関係の深化のポイント

- その地域でどのような活動が可能か、受け入れ可能な人数や時期、トイレ等の有無といった基本的な情報があれば、企業側から問い合わせをするハードルが下がる。
- 慣れていない企業が参加するには、ある程度受入体制ができている地域がどこにあるかという情報が重要。
- 地域側、企業側にリーダーシップを持って推進できる人がいれば2者で連携が進むが、余裕があるところは少ないため、中間支援組織による支援が求められている。
- 地域、企業がお互いに評価して次の年の計画へつなげていくことにより、活動がマンネリ化しにくくなり、発展性がある。中間支援組織がフィードバックや次年度の計画策定の支援を行うことも重要。

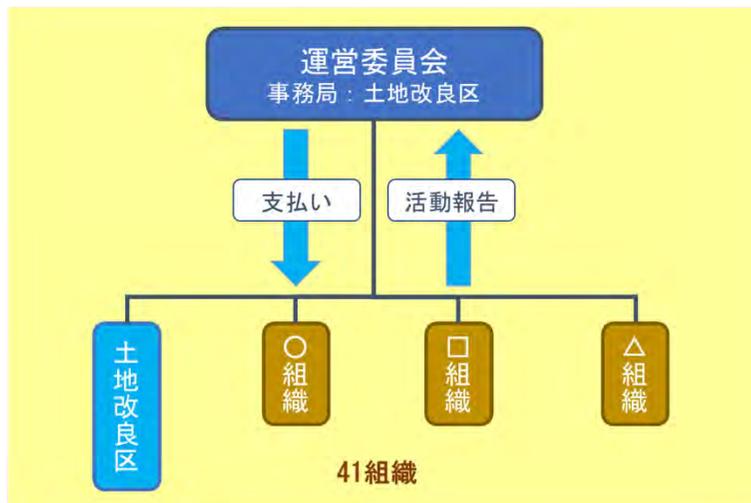
(2) モデル地区調査 ① 新津郷広域協定 (新潟県新潟市)

にいつごう

【新津郷広域協定】新潟市の大規模な土地改良区を母体とする広域協定であり、土地改良区が事務局を担い、実施体制が整っている。傘下の活動組織の活性化・連携支援により、地域全体の多面的機能の維持発揮を図っている。

【傘下の活動組織】現在のところ、活動参加者数の確保に支障は生じていないが、今後の高齢化・人口減少に備え、地域住民の参加を拡大するための方策が求められている。

新津郷広域協定 組織概要



運営委員会

- ・ 申請書・実績報告書等の関係書類作成
- ・ 交付金の一括管理
- ・ 各活動組織には配分額を提示 (面積×単価)
- ・ 活動報告を受けて活動組織へ活動費等を支払

土地改良区

事務局 4名、技術職 3名で対応

- ・ 補修工事等の実施

活動組織

- ・ 従来通りそれぞれ独自の活動を実施
- ・ 事務局 (土地改良区) へ作業日報等で報告



新津郷広域協定概要図

【広域協定概要】新津郷広域協定

- ・ 認定農用地面積 3,836.9ha (田3,657.9ha、畑179.0ha)
- ・ 取組内容 農地維持、資源向上 (共同・長寿命化)
- ・ 主な構成員 農家組合、自治会、学校PTA等



調査 1 : 活動組織への調査

- 3つの活動組織役員7名にSDGsアイデアシートを記入してもらい、感想・意見を聞き取り。
- この意見を踏まえ、広域協定事務局と活動組織が中心となり組織構成員向けのPR資料を試作。

活動組織役員のSDGsアイデアシートに対する感想・意見

- ・ 共同活動はSDGsと多くの点で重なっていることがわかった。
- ・ これまで活動してきたことが、SDGs目標達成に貢献していることがわかり、今後も継続していきたい。
- ・ 共同活動への参加意義を伝えるうえでヒントとなった。
 - ①若い世代には、多面的機能というよりSDGsをPRした方が関心を持ってもらえそう。
 - ②子供たちは、学校でSDGsを学習しているので、身近なところにあるSDGsの取組を伝え、小中学校と連携したい。
- ・ 共同活動は、これまでの農業者を応援するために行うとの認識から、SDGsに貢献することが理解されれば、本来地域全体で取り組むべきとの認識へ変わっていくのではないかと。
- ・ SDGsアイデアシートは、自分たちの活動が該当しない項目が含まれていたり、文字が多いため、構成員や地域住民への普及にはそのまま使用し難く、より分かりやすい説明が必要。



対応

- 活動組織が実際に行っている活動（写真）とSDGs目標を結び付けたPR資料を作成。

調査1：活動組織への調査

SDGs アイディアシート (活動組織の役員・事務局向け)

多面的機能支払版 SDGs アイディアシート(案)

SDGs達成に貢献する活動の実施状況を確認してみましょう

※のある項目は、実績報告を参照してチェック可能な内容

①実施している取り組みにチェックをつけてください

I 資源と環境(地域資源と農村環境の保全等への貢献)	
【目標6】 地域における水質を保全する。	<p>6.3 水質保全、ゴミ等の投棄防止、水の循環利用を増やすなどの取組によって、水質を改善する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 畑からの土砂流出対策に取り組んでいる(水質保全)※ <input type="checkbox"/> 水質保全等を考慮した施設の適正管理、循環かんがいの実施等に取り組んでいる(水質保全)※ <input type="checkbox"/> 施設等の定期的な巡回点検・清掃に取り組んでいる(景観形成・生活環境保全)※ <input type="checkbox"/> 本交付金と合わせて環境保全型農業直接支払交付金に取り組んでいる <input type="checkbox"/> 下記の活動に取り組んでいる(チェックを付けたら、活動内容を欄に具体的な活動内容を記載してください) <p>活動内容:</p>
【目標13】 気候変動及びその影響を軽減するための対策を実施する。	<p>13.1 災害に対する強靱性、対応力を強化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 排水路等の草刈りや泥上げ、点検等により異常気象時等の被害軽減に取り組んでいる(農地維持) <input type="checkbox"/> 異常気象後の見回りや応急措置により、異常気象時等の被害軽減に取り組んでいる(農地維持) <input type="checkbox"/> 水田の貯留機能向上活動に取り組んでいる(水田貯留機能増進)※ <input type="checkbox"/> 地域住民による直営施工に取り組んでいる(増進活動)※ <p>活動内容:</p> <p>13.3 災害時における応急体制の整備、水田やため池の雨水貯留機能の活用などによる防災・減災のための啓発・普及を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 防災・減災力の強化に取り組んでいる(増進活動)※ <input type="checkbox"/> 地域における水田を利用した水田貯留機能増進・地下水かん養を推進していくために下流域と上流域との間の情報交流、連携を図っている(啓発・普及活動) <input type="checkbox"/> 下記の活動に取り組んでいる <p>活動内容:</p>
【目標14】 海洋・海洋資源を保全する。	<p>14.1 海洋ゴミや富栄養化などによる海洋の汚染を防ぐ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 水質保全活動により、海洋ゴミや海の汚染の減少に取り組んでいる(水質保全)※ <input type="checkbox"/> 施設等の定期的な巡回点検・清掃により、海洋ゴミや水質汚染の防止に取り組んでいる(水質保全)※ <input type="checkbox"/> 水資源の保全により、水質浄化や海の環境保全に取り組んでいる <p>活動内容:</p>
【目標15】 地域における生物多様性を保全する。	<p>15.5 生物多様性保全のための取組を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 生態系保全活動に取り組んでいる(生態系保全)※ <input type="checkbox"/> 下記の活動に取り組んでいる <p>活動内容:</p> <p>15.8 外来種の侵入を防止するとともに、外来種を駆除する取組を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 外来種の駆除に取り組んでいる(生態系保全)※ <input type="checkbox"/> 生物の生息状況の把握により、外来種の侵入を防止している(生態系保全) <input type="checkbox"/> 下記の活動に取り組んでいる <p>活動内容:</p>
II 社会(農村の地域コミュニティの維持・強化への貢献)	
【目標3】 やすらぎや福祉の機会を提供する。	<p>3.4 地域資源の有するやすらぎや教育の場としての活用を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 地域資源の有するやすらぎや教育機能を活かす活動に取り組んでいる(増進活動)※ <input type="checkbox"/> 様々な取組や交流活動により、老若男女、地域内外を問わず、多様な主体の活躍の場を創出している(農村環境保全活動) <input type="checkbox"/> 下記の活動に取り組んでいる <p>活動内容:</p>
【目標4】 地域内外の人に質の高い教育、生涯学習の機会を提供する。	<p>4.7 持続可能な地域づくりに必要な知識や技術について、地域住民等の理解を深めるための啓発・普及を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 農村環境保全活動の実践活動や啓発・普及活動を通じて、持続可能な地域づくりへの理解を深める取組を行っている(農村環境保全活動) <input type="checkbox"/> 学校教育等との連携により、地域の産業や環境保全に関する学習の機会を提供している(農村環境保全活動) <input type="checkbox"/> 下記の活動に取り組んでいる <p>活動内容:</p>
【目標5】 女性の参画により地域や活動組織の取り組みの可能性を広げる。	<p>5.5 活動組織の役員や活動に参加する女性の割合を増加させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 活動組織の計画策定や運営等に女性が参画している(活動組織には女性役員がいる)※ <input type="checkbox"/> 女性が中心となって企画している活動がある <input type="checkbox"/> 活動内容や時間帯等、女性が活動に参加しやすい工夫をしている <input type="checkbox"/> 下記の活動に取り組んでいる <p>活動内容:</p>

活動組織がチェックを入れた活動内容と該当するSDGs目標を抽出

一般向け説明資料 (活動組織の構成員・地域住民向け)

身近なところにあるSDGsに関する活動

ご存じですか？地域で行う共同活動は、持続可能な社会をつくり継承するという点で、SDGsの目標達成に貢献しています！ (活動組織A)



経済(構造改革の後押し等、地域農業への貢献)

【目標2】持続可能な農業生産を支えるため、水路等の適切な保全管理を行っています。
【目標9】資源向上支払(共同・長寿命化)活動は災害に強いインフラづくりにつながります。



水路の草刈り



水路の泥上げ



水路の軽微な補修等



資源と環境(地域資源と農村環境の保全等への貢献)

【目標6】施設等の定期的な巡回点検・清掃は水質保全につながっています。
【目標13】気候変動及びその影響を緩和するための活動を実施しています。



施設等の定期的な巡回点検・清掃



異常気象後の対応



社会(農村の地域コミュニティの維持・強化への貢献)

【目標11】【目標16】女性会や子供会など多様な主体が活動組織の構成員として参画しています。



施設等の定期的な巡回点検・清掃



植栽等の景観形成活動



年度活動計画の策定

調査 2 : 広域協定事務局への調査

- 広域協定事務局にSDGsアイデアシートを見せ、感想・意見を聞取り。
- SDGs目標と共同活動とのつながりをテーマとしたカレンダーを試作。

新津郷広域協定事務局（土地改良区）のSDGsアイデアシートに関する感想・意見

- ・ 共同活動が具体的にSDGs目標のどれに貢献するかがわかり、活動組織の気づきや地域住民へのPRに有効。
- ・ SDGsアイデアシートにおける自分たちの活動内容は、農家等にすんなり入ると思うが、それらをSDGsと結び付けて理解するには工夫が必要。
- ・ 広報等にSDGs目標と共同活動との関係を盛り込んで普及したい。
- ・ 共同活動の普及のために、各活動組織の作業内容や参加者を示す写真を編集してカレンダーを作成し、活動組織に配布して集会所等に掲示してもらっている。
- ・ 今後は、SDGs目標との関係を盛り込んだカレンダーを作成していきたい。



対応

- SDGs目標ロゴ、目標達成に貢献する活動の写真、それらを結び付けるスローガンを盛り込んだカレンダーを試作。

調査 2 : 広域協定事務局への調査

【従来のカレンダー】













次世代に残そう 美しい農村環境

MEMO

2023 令和5年

1

January

2022 日月火水木金土
12 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

2023 日月火水木金土
2 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28



新津郷広域協定
〒956-0031 新潟市秋葉区

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI
1 祝 元日	2 月 2日	3 水 3日	4 木 4日	5 金 5日	6 土 6日
8 月 8日	9 火 9日				
15 水 15日	16 木 16日				
22 水 22日	23 木 23日				
29 水 29日	30 木 30日				



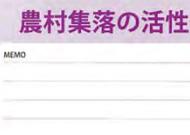
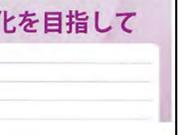


ふるさと沢っ子隊





天代田原クリーン環境保全会

ふれあい安住団保全会





リョウ子い会





なごみの里新保保全会





そよがせ小園戸

農村集落の活性化を目指して

MEMO

2023 令和5年

2

February

2023 日月火水木金土
1 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

2023 日月火水木金土
3 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31



新津郷広域協定 (事務局:新津郷土地改良区)
〒956-0031 新潟市秋葉区新津4540番地 TEL:0250-22-2411(内) FAX:0250-22-042

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI
29 水 29日	30 木 30日	31 金 31日	1 土 1日	2 日 2日	3 月 3日
5 土 5日	6 日 6日	7 月 7日	8 火 8日	9 水 9日	10 木 10日
12 土 12日	13 日 13日	14 月 14日	15 火 15日	16 水 16日	17 木 17日
19 土 19日	20 日 20日	21 月 21日	22 火 22日	23 水 23日	24 木 24日
26 土 26日	27 日 27日	28 月 28日	1 火 1日	2 水 2日	3 木 3日

【SDGs目標を用いたカレンダー（試作）】













1 次世代に残そう 美しい農村環境！



6 安全な水とトイレを世界中に

Sun Mon Tue

1 2 3

8 9 10

15 16 17

22 23 24

29 30 31




2 草刈り作業中！ みんなで農地を守っていこう



2 飢餓をゼロに

Sun Mon Tue Wed Thu Fri Sat

1 2 3 4

5 6 7 8 9 10 11

12 13 14 15 16 17 18

19 20 21 22 23 24 25

26 27 28